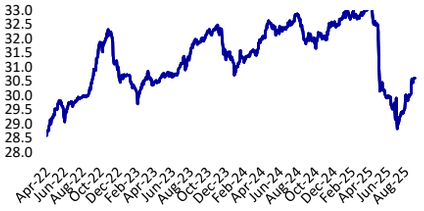
Mizuho Weekly Market Report

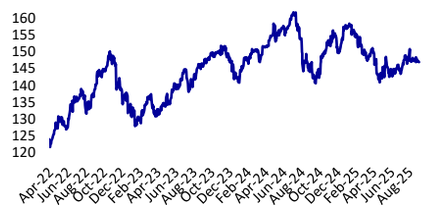
2025/9/1
みずほ銀行東アジア資金部台北室

市場動向

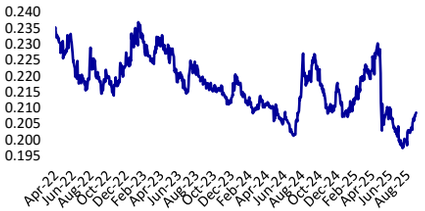
■USD/TWD



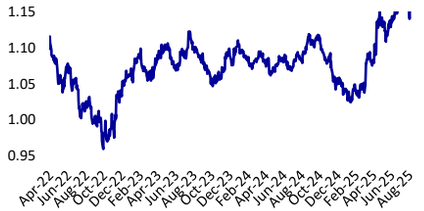
■USD/JPY



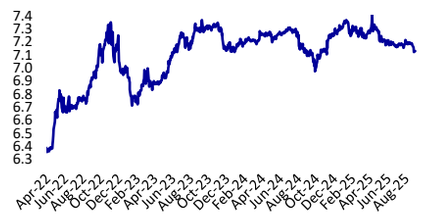
■JPY/TWD



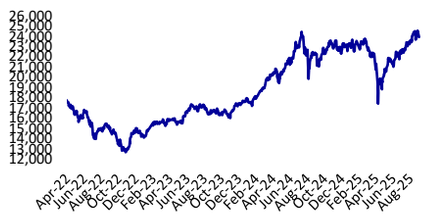
■EUR/USD



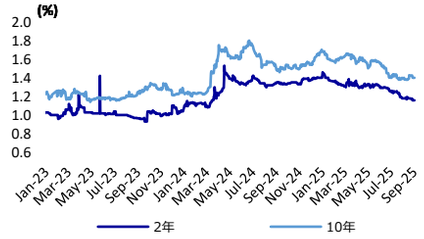
■USD/CNH



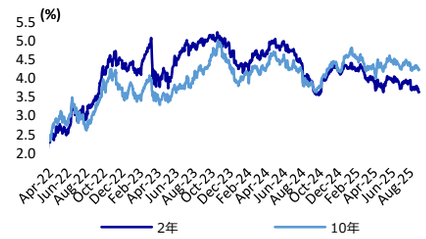
■台湾加権指数



■台湾國債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のUSD/TWDは上昇。8/25、30.530でオープンした後、先週末パウエル議長のハト派な講演が利下げ期待感を押し上げたことを受け、ドル安が一段と進み、台湾株式市場は急騰したが、中央銀行の調整により、ドルの下落幅が縮小。8/26、午前中は売買が拮抗したため、USD/TWDは狭いレンジ内で推移。後場に入り、アジア通貨安や外国人投資家による台湾株売りを受け、ドル買い優勢の展開。8/27、午前中は明確な方向性を見出せず横ばいで推移。後場に入り、国内投資信託からの外貨需要が増えた一方、輸出業者はドル売りを控えたため、USD/TWDは上昇し、最高値30.582でクローズ。8/28、台湾ドルはアジア通貨と共に上昇し、ドルは一時30.520まで下落。午後は外資や国内投資信託による外貨買いや資金流出がやや優勢となり、USD/TWDは30.580で推移。8/29、台湾株は最高値を更新したものの、利益確定売りに抑えられ、外国為替市場での取引は依然として30.500台で推移。最終的には前週比0.07%ドル高台湾ドル安の30.605でクローズ。週間の外国人投資家の株式売り越し額は105億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のUSD/JPYは小幅上昇。8/25、146.80でオープン後、先週末のパウエル議長の講演後ドルは急落したが、米金利の反発するにつれてドル買いが優勢な展開となり、一時147.92まで上昇。8/26、クックFRB理事解任を巡る報道に注目が集まる中、FRBの独立性への懸念が高まりドルは上値重く推移し147円を割り込む。その後、発表された米8月消費者信頼感指数が市場予想を上回る堅調な結果となったことを受けて147円台後半まで上昇。8/27、ドル買いが優勢となり、148円近辺まで上昇。海外時間では、トランプ大統領のFRB人事をめぐるFRBの独立性への懸念が根強く、ドル売りが優勢な展開になり、147円前半まで反落。8/28、中川日銀審議委員が利上げに向けて環境は改善傾向であると発言。日銀による早期利上げの思惑から、ドルは147円付近まで下落。海外時間では、米第２四半期GDPの改定値が予想を上回ったことでドルは一時上昇。その後は米長期金利の低下が重しとなり、ドルは一時146.66まで反落。8/29、米国7月個人消費、支出、PCEデフレーターはすべて予想一致。市場はFRBによる9月の利下げ予想を約90%まで上昇し、USD/JPYは再び147円を超えた。最終的には前週比0.08%ドル高円安の147.02でクローズ。

■USD/TWD　**予想レンジ：30.400-30.800**

今週のUSD/TWDはレンジ推移となる予想。トランプ大統領がFRBへの影響力拡大を目指す中で、FRBの独立性に対する懸念が高まり、米国債利回りの低下したことでドルへの圧力強まり、ドル安となる。今週発表される米非農業部門雇用統計は今後の金利政策の変更を左右する重要な焦点となるだろう。

■USD/JPY　**予想レンジ：145.80-149.00**

今週のUSD/JPYはレンジ推移となる予想。直近の米国インフレ指標は予想通りであり、市場は9月のFRBによる利下げ確率を90%と予想。今後の金利政策の変更を判断する上で、今週発表される米国の非農業部門雇用者数データが注目されるだろう。

今週の予想

9/1 (MON)	米市場休場、台湾製造業PMI
9/2 (TUE)	米8月ISM製造業景況指数
9/3 (WED)	米7月JOLTS求人件数
9/4 (THU)	米8月ADP雇用統計、米8月ISM非製造業景況指数
9/5 (FRI)	米8月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようにお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。